

ドイツ語の母音、半母音、音節

① 母音を表す文字：a, e, i, o, u, ä, ö, ü

例外：

- „qu“という組み合わせでは、発音は„kw“と同じで、u は子音を表します。
- „r“の文字は、母音の後に置かれている場合には「母音化」することがあります。ただしその場合でも、„r“音節を構成する単独の母音にはなりません。(Kern, unter など)
- „y“は外来語にしか使われない文字ですが、母音を差す場合が多い。ギリシャ語から来た外来語 (学問用語には多い) には y が ü と同じ発音になります。(Physik: 発音は Füsik)
- ラテン語から来た外来語 (学問用語には多い) では、„i“が子音 (あるいは「半母音」とも言う) になることがあります。(Nation: 発音は Nazjon)
- 現代語 (英語、フランス語など) から来た外来語では原則として原語の発音に従うのでドイツ語のルールは当てはまらない場合が多い。
- 人名や地名のスペリングと発音には様々な例外があります。

② 上の8つの母音には全て長短が区別されます。

a と ä 以外の母音では長短の発音は長さだけではなく、発音 (母音の音色) も違います。その場合の短音では長音より口が開くので、長音は geschlossen (閉まった)、短音は offen (開いた) の母音であるとも言います。また、e の短音に関しては強調される発音と強調されない発音が区別されます。強調される短音の e は短音の ä と同じ発音になります。

強調されない e の発音は子音からも影響を受けますが、非常に軽く発音され、完全に消える場合もあります。消えても書かれる場合と、消えたら書かれない場合があります。前者の例：Faden: は Fadn と発音されることが多いが、Fadn と書くのは誤りです。後者の例：andere では真ん中の e が消えることがあり、その場合は andre と表記します。発音されない e が Faden で書かれ、andre で書かれない理由は、母音が音節の存在を示すからである。二音節語 Faden は Fadn と発音されても二音節語です。三音節語 andere は andre と発音される場合二音節語になります。その理由は、以下の4) 半母音と5) 音節の説明から明らかになります。

従って実際の発音 (音色) から見たドイツ語の母音は少なくとも 14 種類があります。
(長母音をコロンで表します。)

- | | | | | | | | |
|-------|-------|------------------|-----------|--------|-------|--------|-------|
| 1) a: | 2) e: | 3) e (強調), ä:, ä | 4) e (軽く) | 5) i: | 6) i | | |
| 7) o: | 8) o | 9) u: | 10) u | 11) ö: | 12) ö | 13) ü: | 14) ü |

長母音の特別の表し方（綴り）

ah, aa (= a:); eh, ee (= e:); ie, ih, ieh (= i:); oh, oo (= o:); uh (= u:); äh (= ä:); öh (= ö:); üh (= ü:)
ただし母音の文字が単独で使われても長母音を差す場合が多い。βの前に置かれた母音は例外なく長母音です。

短母音の特別の表し方（綴り）

二重子音、または複数の子音が母音の後に置かれると、その母音が原則として短母音になります。ただし複合語、動詞変化などによって生じた形式はその限りではありません。

③ ドイツ語には次の三種類の二重母音があります。

ei, ai (発音は ai。人名などでは ey, ay という表記も)

au (発音は ao)

eu, äu (発音は oi)

→ 二重母音は音節とスペリングのルールに関して長母音と同じ扱いになります。

④ 半母音のこと

子音の中で、声を出しながら続けて発音できるものは「半母音」とも呼ばれます。具体的に言えば j, l, m, n, ng, r, s (ざ行), w です。上に挙げた Faden の例で e が発音から消えても音節が成立するのは、d の後に半母音があるからです。

⑤ 音節のこと

音節は発音上のもっとも重要な単位です。韻文のリズムも音節によって構成されます。一音節は以下のような構造を持ちます。

×	×	短母音	×	×
又は	又は	又は	又は	又は
子音	半母音	長母音	半母音	子音
又は	又は	又は	又は	又は
複数の子音	複数の半母音	二重母音	複数の半母音	複数の子音

従って音節の数を、音節の中心となる母音あるいは二重母音を数えることによって定めることができます。

例

一音節語：Ei, ich, nah, querst, zwei, sieht, schwarz, Strauch, grunzt, Bruch, Dorf, Moor

二音節語：Eier (Eiler), Vater, Erbrecht, Oma, sehe (発音 seh|e), säe, schlürftest, Seeaal

三音節語：vereinigt, Ebene, Faustregel, Herbststräucher, ehrenhaft, Leiermann (Leier|ermann)

四音節語：Sattelschlepper, Befangenheit, Versicherung, Räuberleiter, Frauenquote

五音節語：Universität, Mietvertragspartei, übergebende など

綴りから見た音節は必ず母音を含みます。しかし音節が発音される時に、上記の Faden でも言及したように、母音が発音されない場合があります。その場合には半母音が母音の機能を果たします。発音で母音が消えても、音節は上記のような山形になっています。つまり子音によって隣の音節から切り離されるので、半母音があっただけでも山形が生じ、発音には音節が成立します。音節は常に「声の衝撃」として聞こえてきます。